

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

公表日: 令和5年 1月 21日

事業所名: 共生型デイサービスささの家 サービス種類: (児童発達支援・放課後等デイサービス)

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	利用人数が増え手狭になってきたため、増改築計画中で、今年度末には完成予定。近くの親水公園や敷地内付近の空き地を使って戸外遊びも行っている	はい35.7%、どちらともいえない50%、分からない14.3% 屋内は人数次第かなと思いますが、屋外は充分だと思います子どもに聞くと大丈夫と言っていました	整理整頓を心掛け、利用者が心地よく過ごせるように環境を整えてスペースを確保していく。自治会の方からグラウンドや公民館の利用についても呼び掛けていただいているので利用させていただくよう計画を立てていく
	2 職員の適切な配置	基準を満たした職員を配置している(常時常勤3~4名)	はい71.4%、どちらともいえない14.3%、わからない14.3% 人数が多い時はどうなっているのかなと思います	丁寧な支援ができるよう、利用の人数に合わせた人員の確保に努めていく
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	施設内外のバリアフリーが整っている 各部屋の出入り口にはネームプレート(文字・絵柄)を付けわかりやすくしている	はい100%	利用者に合わせた環境を臨機応変に今後も整えていく
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日終了後清掃と除菌を行っている。月ごとの壁面飾りを高齢者と一緒に作り飾っている。個に応じた手作りの教材作りや、場や時間の確保をしている	はい92.9%、分からない7.1% 増設予定であれば宿題をする場所と遊ぶ場所を分けてもいいのかなと思う	コロナ対策を引き続き行い衛生面に気を付け清潔な環境を整えていく
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	日頃より職員間のコミュニケーションを大事にし、子ども達に関する情報を共有できるようにしている。年1回保護者へのアンケート調査を行い業務改善に努めている		個に応じた目標を立案し、職員間で利用者の情報を共有し反省評価を行い次の支援の手立てとしていく
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	年2回運営推進会議を行い、地元の方からの意見を聴き体制づくりに努めている		自治会や利用者の家族の方から意見を聴きながら業務改善をし、よりよい事業所にしていく
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	図書やマスメディアを通しての勉強は各自行っているが、研修にはあまり参加できていない為今後研修案内を回覧するなどしていく		研修後の報告会を行うなど今後も職員の資質向上を目指す。また研修に参加できるような体制をとっていく
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者と面談をしたり電話で願いや悩みを聴いたりしている。また相談支援事業所から家族のニーズを聴き取り、相談支援事業所作成の利用計画書を連動させ一人一人に対応した計画を作成している		
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者からの要望や悩みを聴き取り、一人ひとりの特性に合わせた支援計画を作成している	はい100% 細かい所までよく見て下さっていて、その都度伝えて下さるのでとても助かっています	相談支援事業所との連絡を取りながら、利用者一人ひとりに合わせた計画を作成していく
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	利用者の状況を家族や学校から聴き取り把握して支援内容について具体的に記載している		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	指導員が相談支援事業所からのサービス利用計画書と、個別支援計画書に目を通し内容に沿った支援をしている	はい100%	職員間で情報共有し丁寧な支援を行っていく。支援に必要な手作りや市販の教材を準備する
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	指導員が終了後の時間や休憩時間などを利用して活動内容について話し合いをもっている。また、個々の特性に合わせた無理のない手作りの教材を活用したり、利用児童が皆で一緒に楽しめるような活動を提供したりしている	はい100% いろいろな体験や遊びをさせてもらっていてとても良いと思います	内容の充実したプログラムになるように全体で話し合いを行う
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	学校の下校時刻や保護者の意向に合わせて、利用日や送迎時間を組むようにしている朝からの利用日は外出支援も行っている		保護者や利用者のニーズを聴きながら支援を行っていく
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	季節の行事や誕生日会など高齢者との交流を取り入れたり、戸外での遊びを取り入れたりしてプログラムを提供している		連絡帳やホームページ・通信を利用し活動の様子を知らせる
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	支援開始前に利用者に関する情報やプログラム・支援内容について話し合いを行っている		今後も支援について具体的に話し合いを行っていく
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	偏った支援にならないように利用開始前に前回の個々の様子について気になったことなど話し合い情報を共有している		今後も職員間で情報の共有を行っていく
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	個人記録を記入し、次の支援に活かせるような記録の書き方に努めている。また、いろいろな角度から一人ひとりを見ていくように努めている		今後もわかりやすい丁寧な記録に努める
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	支援計画の見直し時期を利用し保護者のモニタリングを実施し、活動の時の様子を保護者に伝え計画の振り返りをしたり悩み事や困りごとなどについて聴き取ったりしている。利用者の課題について保護者の同意のもと作成している		今後も丁寧な聴き取りを行い個に応じた計画を作成していく	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	担当者会議に毎回参加している。また、相談支援事業所と電話や紙媒体でモニタリングを行うなど、連絡を密にとりながら必要な情報共有を行っている。その際、内容を他の指導員にも報告し情報の共有を行っている		今後も情報共有し支援につなげていく
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現在医療的ケアが必要な方や重症心身障害のある方の受け入れは行っていない		
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	現在医療的ケアが必要な方や重症心身障害のある方の受け入れは行っていない		
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	送迎時を利用して保育所や認定こども園、小学校、特別支援学校の先生と学校での様子や施設利用時の様子について話し、情報の共有を行っている。また、相談支援事業所とも密に連絡を取り情報の共有を行っている		今後も情報共有を行っていく
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	現在、該当する利用者がいないので行っていない		円滑な移行支援に関し学んでいきたい
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	現在研修にあまり参加できていないので今後研修案内を提示し、研修に参加できるようにしていく		研修に参加できるような体制を整えていく
	7	児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現在交流はしていない	はい21.4%、どちらともいえない14.3% いいえ21.4%、わからない42.9% ・まだコロナが治まっていないので難しいかなと思います ・コロナが治まっている時に児童クラブとの交流をしても良いかなと思います (小学校の運動場で)	計画を取り入れていきたい

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現在行っていない		今後計画し取り組んでいきたい
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	送迎時を利用して保護者にその日の様子を伝えたり、連絡帳に記入したりして伝えている。また、計画の見直し時のモニタリングにおいては詳しく説明している。負担に関しては契約時に説明している	はい100%	偏った支援にならないように、児童担当の全職員が関わるようにしている。また、分かりやすい説明を心掛けている
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	モニタリング時に、保護者と計画書を見ながら支援について話し説明を行っている	はい100%	今後も保護者のニーズを聴き取り丁寧に説明していく
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	特別に行っていない	はい57.1%、いいえ14.3、わからない7.1%	配布物等を利用し随時発信したりモニタリング時の面談等を利用し家族との情報共有をしていく
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳や送迎時を利用して、保護者から話を聞いたり、利用児の様子を伝えたりしている	はい100%	今後も保護者からの話を聴いていく。送迎時や連絡帳を利用し伝えていく
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	面談やモニタリングを随時行い、共に考えている	はい92.9%、どちらともいえない7.1%	支援事業所の相談員との連携を密にし、情報の共有を行っていく
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現在行っていない	はい14.3%、どちらともいえない14.3%、いいえ42.9%、わからない28.5% コロナが落ち着くまでは難しいと思います	今後の課題として検討していく
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情対応の整備(マニュアル版)を行っている。また、契約時に保護者へ説明を行っている	はい78.6%、わからな21.4% 苦情を言ったことがないのですが、いつも要望にすぐ対応して下さるので心配していません	苦情があった時は職員間で情報共有し迅速に対応していく
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	連絡帳や配布物に目を通されていない保護者においては電話で連絡をしたり、送迎時を利用して口頭で伝えたりしている	はい100% とても親身に丁寧に対応して下さっていると感じています	今後も丁寧に行っていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	月1回通信を発行し行事や活動内容等情報発信を行っている。必要に応じて印刷物の配布も行っている	はい100% 毎月のお知らせを楽しみに家族で拝見しています	今後もホームページや通信を利用し見やすく読みやすい情報を発信していく
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報については契約時に説明を行っている。職員においては雇用契約時に誓約書において署名している。個人情報の綴は鍵のかかるロッカーにおいて管理している	はい100%	今後も充分注意して管理する
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルを作成している。保護者においては契約時に配布を行っている	はい100%	適宜見直しを行い保護者に配布する
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回(9月と3月)高齢者と一緒に、地震と火災の避難訓練を行っている	はい85.7%、わからない14.3%	消防署との連携をした訓練を行っていく
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	障害者虐待対応力向上研修を受講し支援に活かしている。また、研修後報告会を設け他の職員への周知に努めている		障害者虐待防止について職員間で情報を共有していく
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束の必要な利用者はいない。身体拘束については、契約時に重要事項説明書において保護者に説明済み		必要な場合は事前に保護者に確認を行い書面でも確認できるようにしていく
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	現在指示書が必要な重度のアレルギーがある利用者はいない		今後アレルギー症状のある子が利用するようになったら、医師から指示書をもらい関係機関と連携していく。食物アレルギーにおいては提供時に職員間で確認する
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットの報告書を作成することはなかったが、今後も安全点検を行っていく。些細な事故が起こった場合も職員間で情報共有を行い再発防止に努めていく		安全点検を行い危険な場所を職員間で情報共有していく